

令和5・6年度 川口市教育委員会委嘱研究



「学力向上」に関する研究



令和5年度 研究紀要

【研究主題】

「進んで学び、思いや考えを伝えあう児童の育成」

～ どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造 ～



川口市立芝中央小学校

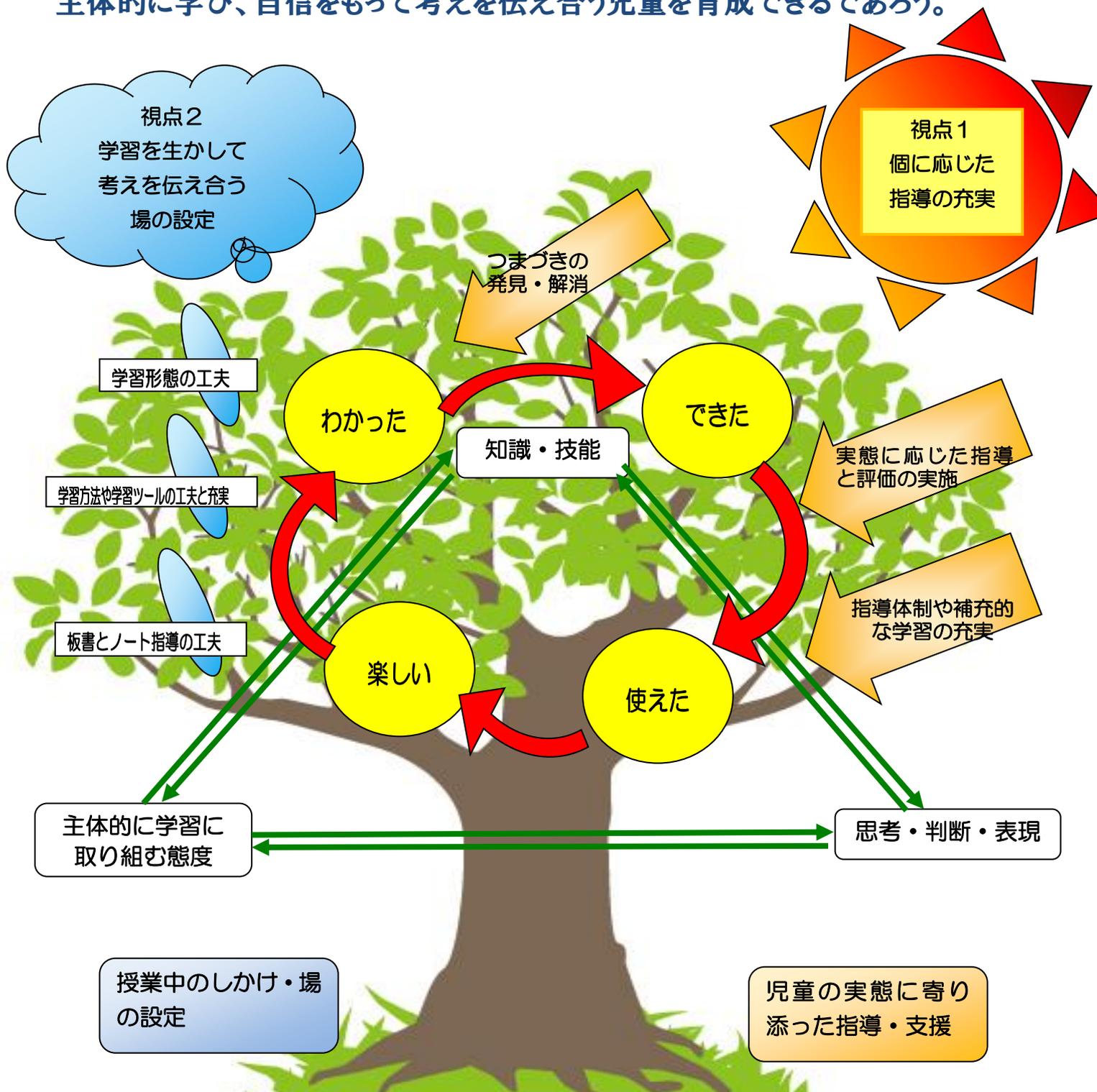


研究主題

「進んで学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」
～ どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造 ～

研究仮説

児童のつまづきを解消し、「わかった」「できた」「使えた」を積み重ねていけば、主体的に学び、自信をもって考えを伝え合う児童を育成できるであろう。



視点3：安心して学習に取り組み、着実に学びを積み上げる環境づくり

- ①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「芝中央スタンダード」の構築
- ②既習事項を生かした課題設定と見通しがもてる授業展開
- ③「わからない＝わかりたい」を素直に表現できる学級づくり



現状と課題

3年生:「川口市小学校低学年基礎学力定着度調査」
「コバトン確認問題集」
正答率国語77.8% 算数81%
4年生:「県学調」平均レベル国語5-B 算数4-A
⇒課題・国語「話すこと・聞くこと・書くこと」
「思考・判断・表現」
・算数「測定・図形」
「思考・判断・表現」

現状と課題をもとにした仮説

・基礎的な漢字・計算・意味理解を徹底し、「わかった」「できた」を積み重ねていけば、主体的に学ぶ児童が育成されるであろう。
・習熟度別学習を実施することによって、低・中・上位層の児童にそれぞれあった課題を与え、学び続けることによって、達成感を味わわせ意欲をもたせることができるであろう
・加詠記教員の役割を明確化・細分化することによって、各学年の副担任はじめ、教員一人一人の意識改善を図ることができるであろう。

事業実施報告

6月27日 要請訪問
8月 サマースクール
11月6日 要請訪問・協議
通年 学習支援員
習熟度別学習
日本語指導

仮説をもとにした取組内容

取組① 指導体制や補充的な学習の充実

算数科の単元のまとめの学習において、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導、一人一人の児童の資質や能力に応じた指導を行うことを目的とし、習熟度別学習を実施した。また、T1を加詠記教員、T2を担任とすることで、授業内容と個別指導の充実を図った。



取組② 朝学習の工夫

国語の詩の暗唱に取り組んだ。友達に聞いてもらったり、暗記したりすることにより「できた」「わかった」が積み重ねられるようにした。
算数タイムでは、思考・判断・表現の向上を目的としてコバトン練習問題に取り組んだ。問題を解く際に、友達同士で協力して取り組んでいた。



取組③ 個に応じた指導の充実

埼玉県の学力学習状況調査を基にした「コバトンのびのびシート」を各クラス2・3名作成し、どの児童がどの部分でつまづいているのかを認識するように努めた。
また、作成シートをもとに授業中に教師が学習状況を見取り、だれがどの部分でつまづいているかを把握するように努めた。



取組④ 学習ツールの工夫と充実

ICTを効果的に活用した。自分の意見が間違っても大丈夫なように、タブレットの機能を使って匿名で意見を交換したり、ヒントカードをレベルに応じて配信したりすることによって、それぞれに合った方法で学習ができるようにした。
来年度からのCBT化に向けて芝東中学校学区でR5算数チャレンジ問題を作成・実施し、小中連携や学習状況の確認に役立てていく。



校内授業研究会 算数科

単元名 割合の表し方を調べよう(比)

令和5年6月27日(火)

6年習熟度別

授業者

唐澤、井上、佐々木

研究主題 「進んで学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」
～ どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造 ～

仮説 児童のつまづきを解消し、「わかった」「できた」「使えた」を積み重ねていけば、主体的に学び、自信をもって考えを伝え合う児童を育成できるであろう。

視点1 個に応じた指導の充実

自分で考えたい子・友達と考えたい子・教師の支援が必要な子などそれぞれ自分に合った方法で学習していく。



- 自分のコースを習熟度別に選択することによって、その単元の習熟度にあったコースを選ぶことができる。
- 各コースの特色を理解し、自分に合った学習方法を選択することができる自己調整能力が身につく。

視点2 学習を生かして考えを伝え合う場の設定

必要に応じて全体で確認したり、個人個人が伝えあったりして理解を深めていく。



- インプットとアウトプットを繰り返すこと
- ・友達と確かめ合ったり、話し合ったりすることによって、学習に対する学びをさらに深めていく。

視点2 安心して学習に取り組み、着実に学びを積み上げる環境づくり

① 学習への見通しをもてる



② 安心して話し合える人間関係

③ 教師が学習の歩みを確認する



- 各コースに応じた学習の流れがわかることによって、子ども達が見通しを持って学習に取り組むことができる
- 日頃の学級経営を基本とした「わからないことをわからない」と言える人間関係づくり
- 教師が子どもの学習に対するがんばりや習熟を確認・フィードバックすることによる学習意欲の喚起

成果(☆)と課題(◇)事後の子どもの変容(◎)

- ☆習熟度別学習に対する事前の説明を丁寧にするにより、目的をもって児童がコースを選び、意欲的に学習することができた。また、子ども達がお互いに話し合って問題を解決していこうとする前向きな姿勢が見られた。
- ◇子ども達が自ら話し合って話し合いの方向性や意見の相違などを見つけることは難しかった。そのため、教師が適切な時に適切なサポートをすることが求められる。また、ヒントカードを必要な児童がヒントを使わなかったり、使わなくてもできそうな児童がヒントを使ったりするミスマッチも起こったため、適切な支援が必要であった。
- ◎子ども達からは「次はいつコース別学習しますか。」と前向きに捉える発言が多く挙がった。今後も適切な時期に適切なタイミングでコース別学習をしていきたい。

校内授業研究会 国語科

単元名 伝わる言葉・慣用句

令和5年11月6日(月)

4年3組

授業者

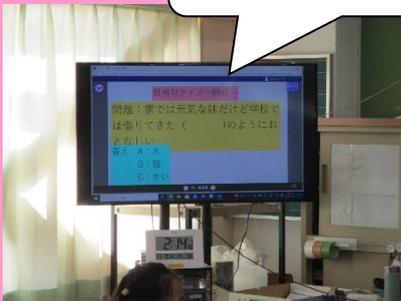
佐々木・古閑

研究主題 「進んで学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」
～ どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造 ～

仮説 児童のつまづきを解消し、「わかった」「できた」「使えた」を積み重ねていけば、主体的に学び、自信をもって考えを伝え合う児童を育成できるであろう。

視点1 個に応じた指導の充実

パソコン操作が苦手な児童の支援を個別に行う。



OGIGA 端末操作(オクリンク)を活用し、どこに何を記入するのかわかりやすいよう、問題・選択肢・ヒントの記入欄を色分けする。

視点2 学習を生かして考えを伝え合う場の設定

友達のよいところを見つけ伝え合う話し合い活動。



○ワークシートを活用し、友達が調べた慣用句の意味や例文を確認し共有する。
○学びあいの過程で、自分の考えをさらに深める。

視点3 安心して学習に取り組み、着実に学びを積み上げる環境づくり



例をもとに、児童が進んで友達と交流を図っている。

○グループで検討してほしい内容を教員(T1とT2)が見本を見せたことで、何を検討したらよいのかを明確にし、迷わずにグループワークができる。

○デジタル機器を活用し、やり方がわからなくても、友達と相談しながら作成することができる。

成果(☆)と課題(◇)事後の子どもの変容(◎)

☆慣用句の意味調べと例文作成のみで終わらず、クイズ形式にしたことで、児童が楽しみながら日常生活と結びつけながら慣用句について学ぶことができた。

☆児童同士で教え合えるよう、机間指導を通して児童に助言した。その結果、教員が教えるばかりではなく、児童同士でのやり取りが増え、話し合いをより活発にさせることができた。

◇児童の知識技能の定着をより図るために、言語活動の内容を吟味する必要がある。

◎本単元を生かして、児童が進んで辞典を使って調べるようになった。

◎学んだ慣用句を日常の生活の中で使っていた。

校内授業研究会 算数科

単元名 分数のたし算とひき算

令和5年11月6日(月)

5年習熟度別

授業者

横山、関、笹森、若松

研究主題 「進んで学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」
～ どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造 ～

仮説 児童のつまづきを解消し、「わかった」「できた」「使えた」を積み重ねていけば、主体的に学び、自信をもって考えを伝え合う児童を育成できるであろう。

視点1 個に応じた指導の充実

机間指導をしながらその児童に合った指導をしていく。



- 習熟度別にクラスを分けることで、何につまづいているかを把握し、適切な指導をする。
- 紙やICTを活用した様々なヒントカードを用意し、問題解決に必要なヒントを自ら選べるようにする。

視点2 学習を生かして考えを伝え合う場の設定

協力して問題の解決方法をまとめています。



- OGIGA 端末(オクリンク)を活用し、友達の解き方やヒントカードを確認し共有する。
- 学びあいの過程で、自分の考えをさらに深める。

視点3 安心して学習に取り組み、着実に学びを積み上げる環境づくり



友達と交流をしながら考えをまとめていく。

- デジタル機器を活用し、必要に応じて問題を確認しながら取り組むことができる。
- 解き方が分からなくても、友達と相談をしながら考えることができる。

成果(☆)と課題(◇) 事後の子どもの変容(◎)

☆習熟度別のクラスに分けることでコースごとに授業内容を変えることができた。その結果、より児童の実態に合った授業展開や声かけを行うことができ、自分で課題を設定したり、必要なヒントカードを自ら選んだりするなど、進んで学ぼうとする姿勢を養うことができた。

◇コースごとに分けて授業を行ったため、教え合いや伝え合いができないコースがあった。児童どうしの関わりの中で「分かった」という感覚をもたせることが必要だった。

◎答えを導き出すための方法はいくつもあることを知り、多様な考えをもつことができた。この経験から、ほかの解法もあるのではないか、と考え思考し続ける児童が増えてきた。また、友達の意見を取り入れようとする意識も高まった。

校内授業研究会 国語科

単元名 ことばを 見つけよう

令和6年1月25日(木)

1年3組

授業者

石塚久護

研究主題 「進んで学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」
～ どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造 ～

仮説 児童のつまづきを解消し、「わかった」「できた」「使えた」を積み重ねていけば、主体的に学び、自信をもって考えを伝え合う児童を育成できるであろう。

視点1 個に応じた指導の充実

視点2 学習を生かして考えを伝え合う場の設定

視点を確認しながらの机間指導



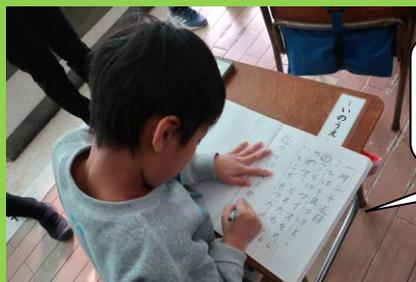
○話し合いでのポイントを明確に示し、机間指導をしながらポイントに沿った話し合いができているか確認し、支援する。

ポイントに沿って良いところを確認している。



OGIGA 端末(オクリンク)を活用し、友達の文や自分の文を見合い、良いところを見つけ共有する。
○学び合いの過程で、自他の文の良いところや、訂正箇所気づき、学習を深める。

視点2 安心して学習に取り組み、着実に学びを積み上げる環境づくり



話し合いの視点をもとに学び合う。
ポイントを絞った振り返りの記述

- 伝え合い学習の進め方を提示し、全員が学習の見通しをもてるようにする。
- 話し合いの際、どんな視点で話し合えばよいか明確にするため、丁寧にポイントの確認をする。
- 記述内容を明確にして振り返りを書く。

成果(☆)と課題(◇) 事後の子どもの変容(◎)

- ☆話し合うポイントや話し合う手順を明確にすることで、子供たちが安心して話し合い活動に取り組むことができた。クイズ大会の前学習として、子供たちが自分のクイズに自信を持つことができた。
- ◇話し合いのポイントを絞りすぎたことで、子供たちの考えの深まりが十分ではなかった。タブレットの接続不良により学習機会が失われてしまう児童がいた。(機械不良の際の代替策が必須)
- ◎友達からの指摘から、間違えていたクイズを正しいクイズやよりよいクイズに変えることができた。友達の意見をより聞こうとする意識が高まった。



現時点での成果

成果① 学習方略を選択できる児童への変容

習熟度別学習と個別指導の強化により、児童一人一人が自分に合ったクラスを選んだり、ヒントを選んだりするようになった。そのことにより、学習に対するモチベーションが高まり、学習意欲が向上した。それぞれのペースで成長し、自信をもって新しい学習に取り組む環境が構築された。

成果② 積極的で助け合う学習集団

詩の暗唱を聞き合う事を通じて、「ナイス」「おいしい」など友達と学習を楽しむような姿が見られた。
算数では、応用問題に取り組むことによって、考え続ける力や粘り強く取り組む態度が向上した。児童たちは、問題解決に向けて協力する姿が多くみられ、積極的な姿勢が目立った。

成果③ 個別指導に生かす体制の強化

コパトンのびのびシートに基づいて学習につまずく児童を早期に発見し、個別の支援を行う体制を強化した。授業中の学習状況を正確に把握し、各児童の理解度に応じた指導を実施。外国籍の児童に対しては、日本語教室の担当教諭と連携し、言語の壁を乗り越えて理解を深められるようにした。その結果、すべての児童がそれぞれのペースで学力を底上げする体制を整えた。

成果④ ICTを積極的に活用する児童

ICTを効果的に活用することにより、これまで全体の前で発表することができなかった児童もタブレットに記入して意見を交流することができたり、自分に合ったヒントを得たりすることができるようになった。
また、ICTを積極的に使って学習を進めていこうとする児童の姿が見られた。

課題及び次年度に向けて

外国籍児童が多数在籍するため、国語・算数ともに問題の意味理解が難しいことが多くある。文字は読めないが、音声を聞けばわかる児童も多数いるため、友達が読んであげたり、ICTを活用して文章を読んでもらったりする工夫を実施していきたい。

ICTの活用に学年間・クラス間で差が見られるため、研修の際に学校全体で試しながらよりよい活用の仕方を模索していきたい。

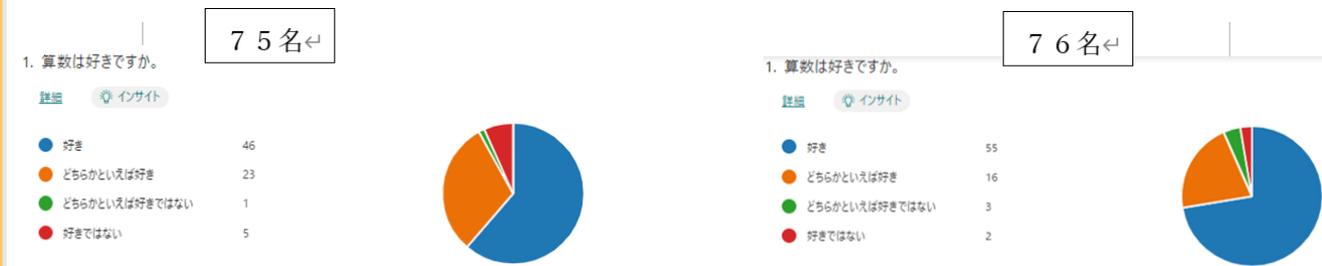
習熟度別学習の選択のさせ方・意欲付け・目的を明確にしながよりよい指導を模索していきたい。



研究の成果と課題

成果

3年生算数1回目・2回目アンケート結果



○3年生では九九を確認するなど基礎基本を繰り返すことによって、学習意欲が向上し、自信を持って割り算などの学習に取り組むことができた。

○「コバトンのびのびシート」の活用により、個に応じた指導を適切に実行することができた。

課題

●学習内容が難しくなるに連れて、学習に対しての意欲が下がっている学年も見受けられる。算数が「できる」から「好き」となるような学習指導体制を柔軟に見直していきたい。

(敬称略)

御指導いただいた先生方

| | |
|---------------------------|--------|
| 埼玉県教育局市町村支援部副部長 | 吉田 勇 |
| 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 | 中里 こず恵 |
| 埼玉県教育局南部教育事務所学力向上推進担当指導主事 | 新井 朋子 |
| 川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長 | 池田 光伸 |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 宮本 麻紀子 |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 村上 悠一 |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 櫻田 貴昭 |

研究に携わった教職員

<令和5年度>

| | | | | |
|----------|----------|------------|--------|-------|
| 校長 中河 正明 | 教頭 平井 悠一 | 教務主任 井上 裕介 | | |
| 教諭 今堀 冴子 | 濱名 佐矢香 | 石塚 久護 | 田中 礼子 | 伊深 友紀 |
| 佐藤 美帆 | 小笠原 恵子 | 野尻 悠 | 宮本 大介 | 菅野 祐未 |
| 古閑 千春 | 市下 祐賀子 | 高橋 美也子 | 佐々木 太郎 | 蕪木 奈美 |
| 横山 明美 | 関 就亮 | 笹森 広大 | 若松 博美 | 唐澤 久子 |
| 佐々木 善洋 | 川津 恵 | 岩本 広子 | 福永 政泰 | 須田 詩織 |
| 大和 京子 | 加藤 由美子 | 矢島 希美 | 渡辺 訓次 | ほか 7人 |